

(様式第2号)

令和5年2月27日

令和4年度 経営発達支援事業評価報告書

第三者評価委員会 御中

始良市商工会

作成者：福島 武志

経営発達支援事業の評価結果について、次のとおり報告します。

項目	商工会 評価	委員会 評価	商工会コメント
目標	B	A	コロナ対策支援事業を中心に、当商工会の経営発達支援事業と絡めながら、個社が多様な視点で取り組むウィズコロナやアフターコロナの事業実現に繋がる支援を中心に実施。 おおむね伴走型小規模事業支援推進事業を通して全般的な計画の実施は出来ているが、目標に対する支援事業の内容や効果について改善が必要である。
a 地域の経済動向調査に関すること	A	S	四半期毎に市内企業の景況を調査。(年4回) 昨年と同じサンプル数で継続実施。 本調査により売上高や経常利益だけでなく、コロナ禍の影響や設備投資の状況も把握でき、事業計画策定支援や個別フォローアップにも繋げた。
b 経営状況の分析に関すること	C	B	確定申告データ、マル経融資推薦書のデータを主に活用した経営分析を実施。 巡回指導件数、講習会の参加事業者数、経営分析事業所数が当初定めた目標数値に対し未達成であるため、巡回指導体制の整備やセミナーの開催内容や周知について見直し、経営分析事業所数の増加に向けた改善が必要。

<p>c 事業計画策定支援に関すること</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>ネット de 記帳等の財務データ等を活用しながら、各種補助金制度や公的支援策を活用して、事業計画策定支援を実施。</p> <p>「事業計画策定セミナー」については、個別指導を多く企画した為、参加事業者数が目標数値から未達となりましたが、補助金申請に繋げることができた。</p> <p>昨年度開催できなかなった「事業承継セミナー」「若手経営者セミナー」は開催できたが、「女性経営者セミナー」は今年度も開催ができていない状況のため、実施に向けて検討が必要である。</p> <p>「創業セミナー」では、17名の受講者のうち16名が、始良市の認定創業者となった。</p>
<p>d 事業計画策定後の実施支援に関すること</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>コロナ関連融資の据置期間後の返済への相談者が多く、アフターコロナに向け、新たな事業資金の申込が増加した。また、補助金申請者に伴う補助事業の進捗状況や実績報告に関するフォロー件数等も増加した。</p> <p>各種補助金申請を行った事業所を中心に、伴走型小規模事業者支援事業による「専門家とのフォローアップ」を実施し、計画策定後からの現状分析や問題解決に向けた個別指導を実施。</p>
<p>e 需要動向調査に関すること</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>第2期経営発達支援事業計画から、アンケートの趣旨を大きく変更し、『あいらブランド』の商品開発に繋げる消費者アンケートを実施。</p> <p>アンケート結果を今後、事業者がどう生かしてもらうかなどのフォローアップの方法を具体的に提案していく必要がある。</p>
<p>f 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>・<u>新商品や新サービスの開発</u></p> <p>農商工連携については、始良市の特産品「はだか麦」を活用した商品開発や「きくらげ」の販売支援に取り組み、商品力向上のためのご意見をいただいた。</p> <p>「はだか麦」商品については「逸品フェア」ならびに「かご市フェア」での販売支援を実施。</p>

			<p>「きくらげ」については県外向けに「通販食品展示商談会」へ初めて出品した。</p> <p>商品開発については新たな商材の掘り起こしを含め、継続実施する必要がある。</p> <p>・<u>需要開拓支援</u></p> <p>「ブランディングセミナー」を実施。県内外の出展支援にもつながる、自社商品の魅力の掘り起こしや新しい視点から出展支援や新商品開発支援に繋げた。しかし参加事業者が目標よりも少ない結果となった。</p> <p>県外（東京都）出展や県内（逸品フェア・かご市フェア等）出展については、出展前の計画策定、現場でのレイアウト指導、終了後のフィードバックまでと一連の流れで経営指導を行った。</p>
g 地域経済活性化に資する取組	B	S	<p>地域の各団体で構成される地域活性化委員会を3回の計画のうち2回開催。</p> <p>地域事業発展についての意見交換も実施。今後の始良市の展望等について協議した。</p>
h 支援ノウハウ等の情報交換	A	S	<p>金融懇談会（12月）、毎月1回の商工観光課との定例会、毎週火曜日の指導員定例会を実施。</p> <p>特に金融懇談会では、始良市内の金融機関の営業担当と意見交換を行い、「コロナ禍における最近の融資の取り組み方について」「管内事業所の景況や今後の事業展開」など支援ノウハウ等の情報交換に務めた。</p>
i 指導員の資質向上	A	A	<p>県商工会連合会、中小企業大学校が実施する支援担当者研修会参加。専門的知識を習得し、小規模事業者の売上拡大等に繋がる支援能力の向上を図った。</p>
全体報告（総合評価）	B	A	<p>目標に対しての未達事項の項目があるものの、アフターコロナに向けた支援に重点を置きながら、伴走型補助事業をベースに、個別フォローアップ等を通して個社支援を実施できた。</p> <p>講習会については、県内での実績があるエキス</p>

		<p>パート講師を中心に選定したが、個別指導が多く、参加事業者数の増加に向けた検討が必要。今後アフターコロナでの多様な視点による経営改善や各種制度改正に対応した伴走型支援実現に重点を置いたセミナーや事業を計画が必要。</p> <p>今年度、第2期の経営発達支援計画の3年目であり、指導員同士での情報共有や支援体制のさらなる強化も必要である。</p> <p>また各指導員が取り組んだ、創業関係、経営革新関係、各種補助金関係の案件については、別の個社支援の場でも活かされるので、情報共有を図り支援の質を高めていく。</p> <p>この経営発達支援計画の遂行については、商工会役員からの理解をさらに高め、商工会全体の組織として取り組める体制づくりが必要である。</p>
--	--	---

※評価の目安 S：目標水準を100%以上達成した。

A：目標水準を80%以上達成した。

B：目標水準を50%以上達成した。

C：目標水準を30%以上達成した。

D：目標水準の達成度はそれ以下であった。